

ペグインターフェロン・リバビリン併用療法後の予後に関する研究

1. 研究の対象

2014年6月までに、当院でC型肝炎に対してペグインターフェロン・リバビリン併用療法を受けられた方

2. 研究目的・方法

C型肝炎は、C型肝炎ウイルス (hepatitis C virus : HCV) の持続感染により肝炎が持続し、慢性肝炎から肝硬変、肝細胞癌の経過を辿る疾患です。一方、インターフェロン (interferon : IFN) を用いた抗ウイルス治療によりHCVが排除されると、肝炎が鎮静化し、肝線維化の進展や肝癌の発生が抑制され、生命予後が改善することが明らかとなっていますが、HCV排除後に肝癌を発症する症例も少なからず存在します。そこで、ペグインターフェロン・リバビリン併用療法を受けられた方の臨床経過を調べて、HCV排除後の肝癌の危険因子や、HCV排除後の肝癌の特徴について明らかにするために検討を行います。

研究期間：2016年07月11日～2025年12月31日

3. 研究に用いる情報の種類

情報：年齢、性別、病歴、血液検査結果、肝病理組織所見、画像検査所見、生存状況 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

地方独立行政法人市立東大阪医療センター

研究責任者： 消化器内科 副部長 名和 誉敏

住所：大阪府東大阪市西岩田三丁目4番5号

TEL：06-6781-5101

大阪大学消化器内科学 山田涼子

電話番号:大阪大学消化器内科学 (06-6879-3621)

研究責任者：大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学 竹原徹郎

5. 共同研究機関

国立病院機構大阪医療センター 三田英治

国立病院機構大阪南医療センター 肱岡泰三

国立病院機構南和歌山医療センター 山本佳司

大阪労災病院 平松直樹

関西労災病院 萩原秀紀

大阪警察病院 尾下正秀

大阪国際がんセンター 大川和良

大阪急性期・総合医療センター 薬師神崇行

公立学校共済組合近畿中央病院 山本光成

国家公務員共済組合連合会大手前病院 土井喜宣

JCHO 大阪病院 伊藤敏文

兵庫県立西宮病院 飯尾禎元

箕面市立病院 田村信司

市立池田病院 今井康陽

市立伊丹病院 筒井秀作

市立豊中病院 稲田正己

市立吹田市民病院 吉田雄一

市立芦屋病院 竹田 晃

西宮市立中央病院 小川弘之

八尾市立病院 福井弘幸

市立東大阪医療センター 名和誉敏

市立貝塚病院 山田幸則

住友病院 山田晃

第二大阪警察病院 尾下正秀

大阪府済生会千里病院 増田栄治

加納総合病院 久保田真司

明和病院 早川勇二

大阪回生病院 谷村博久

笹生病院 西内明子